

平成27年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機 関 名	宇都宮大学
団 体 等 名	ゆうゆうサイエンスカフェ
学生代表者氏名 (所属・学年)	伊藤 正倫 (農学部・4年)
責任教職員氏名	飯郷 雅之 教授

1. 事業名	ゆうゆうサイエンスカフェ
2. 実施時期	平成27年8月1日～平成28年3月31日
3. 実施場所	下野新聞NEWS CAFÉ, 宇大オプティクス教育研究センター, 陽東書林他
4. 事業の内容等	<p>我々は宇都宮大学において、最新の科学技術を活用し、生物の生理・生態・行動の解明に取り組むとともに、地域活性化につながる研究活動を行っている。これらの研究活動の成果を地域に生かすためには、学内のみならず、他大学や異分野の学生、ひいては地域住民に知ってもらう機会を設け、情報発信を行い、地域のサイエンスリテラシーを向上させる必要がある。</p> <p>そこで、学生が主体となり、学内外、異分野を問わず大学コンソーシアムとちぎに所属する大学間のサイエンスコミュニケーションネットワークを構築し、サイエンスカフェプログラムを共同で企画・運営し、宇都宮大学および大学コンソーシアムとちぎから地域に向けたサイエンス情報発信を行った。帝京大学が基幹校となって進められている「とちぎサイエンスらいおん」プロジェクトとの連携も図り、本事業を進めた。</p> <p>「ゆうゆうサイエンスカフェ」と題して、「とちぎサイエンスらいおん」とサイエンスカフェを共催した。会場は、下野新聞NEWS CAFÉ, 宇都宮大学オプティクス教育研究センター, 陽東書林, 葛の里壺番館を使用した。サイエンスカフェのトークゲスト, ファシリテーターを宇都宮大学の学生が務め、学生自身の研究内容や科学技術を発表し、一般市民をはじめ、異分野の学生が手軽に参加して科学に関する理解を増進することを目指した。</p> <p>宇都宮大学農学部を起点として連携を図り、教育学部, 国際学部, 工学部所属の学生のコラボレーションにより運営した。大学コンソーシアムとちぎに所属する帝京大学や宇都宮共和大学など他大学の学生とは、宇都宮大学農学部の我々の指導教員と共同研究を進めている他大学の教員のつながりを活用して連携をはかり、異分野融合により地域のサイエンスリテラシー強化事業を計画した。新規プロジェクトに向けた共同作業も開始された。</p>

<p>5. 事業の成果と今後の課題</p>	<p>主な成果は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学コンソーシアムとちぎに所属する学内外の学生や地域の方々と意見交換をすることにより、地域をよりよくするための新たな発見や新たな事業展開のきっかけとなり、創造力、企画力の向上につながった。 2. 専門外の方々を対象に研究発表をすることによって研究活動への理解が深まり、プレゼンテーション能力が向上した。 3. 他大学で地域貢献に関する活動を行っている方々と出会い、交流することによって、コミュニケーション力が向上した。 4. 科学と関わりが少ない学生や地域の方々との交流を通して、文系と理系、世代を超えたディスカッションにより、科学リテラシーを育むサイエンスコミュニケーションの場を作り上げることができた。 5. 学生同士が互いに学び、総合力を高めあう場となった。 6. 地域に根差した研究活動を行うことの重要性を再認識できた。一般の方にわかりやすく説明し、研究活動について理解してもらうことで新たなネットワークが構築され、地域に根差した活動につながった。 <p>今後の課題：さらなる連携や新たな企画などを目指し、本事業のSNSページを立ち上げ、企画者と参加者の双方向性ネットワークを構築する必要がある。</p>
-----------------------	---

- (注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
 報告書（添付書類を含む）はA4判5枚以内にまとめてください。
3. この報告書は、各関係機関等に公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を考えております。また、次年度以降の学生生活動支援事業に役立てていきたいと思っております。

原子カフェ(2015.11.23)

ゲスト:小林良彦
(新潟大学大学院自然科学研究科)
ファシリテータ:後藤和史
(宇都宮大学大学院工学研究科)



光カフェ(2015.11.23)

ゲスト:後藤和史
(宇都宮大学大学院工学研究科)
ファシリテータ:深田陽平
(東京農工大学大学院連合農学研究科)



えほんカフェ(2016.2.13)

ゲスト:桑原奈見
(宇都宮大学大学院教育学研究科)
ファシリテータ:武谷真由美



虫カフェ(2016.3.12)

ゲスト:宮田恵佑
(宇都宮大学大学院農学研究科)
ファシリテータ:梅津輝
(宇都宮大学大学院農学研究科)



第1回里山の未来会議(2016.3.21)

第1回 里山の未来会議
～栃木の里山を科学する～
開催日時:平成28年3月21日(月・祝)

近年、里山を守ることが注目されている一方で、人々の生活の変化や土地開発を前にして里山生態系は危機に直面しています。今一度里山の重要性を見直し、より有効に活用するためにはどうすればよいのか?今回は、里山の利活用の実例(栃木市大柿地区・佐野地区の紹介)や生物多様性の保全など、科学的な視点を交えて、里山の未来についてみなさんと考えたいと思います。

- 午前の部
 - ① 佐野地区視察会(10:00~12:00)
場所:葛生長坂地区・田沼多田地区
 - 午後の部
 - ② シンポジウム(13:00~14:30)
 - ③ ワークショップ(14:30~16:40)
場所:葛の里・2階 *参加費:無料
年齢制限無し(小学生以下は保護者同伴)
 - 懇親会(17:00~)・・・「えん」(葛の里1階)
参加費:3000~4000円(ただし参加人数による)

＜共催＞ 産農食共生ネット・NPO法人自然史データバンクアニマ-net・宇都宮大学(ゆうゆう里山 Biodiversity プロジェクト、ゆうゆうなまこ-ず、ゆうゆうサイエンスカフェ)
＜協力＞ とちぎサイエンスらいおん、葛の里グループ
ららおし実行委員会・佐野市環境ネットワーク会
＜申し込み＞ 参加ご希望の方は3月18日(金)までに、下記の連絡先まで申し込みください。
● 会場:谷ノ人(産農食共生ネット)
TEL:090-6116-3876 E-mail:gaishizan@gmail.com
● 人見愛(宇都宮大学農学部生物有機化学研究室)
E-mail:a123186@cc.tsunomiya-u.ac.jp

第1回 里山の未来会議
～栃木の里山を科学する～
開催スケジュール
日時:平成28年3月21日(月・祝)

【午前の部】
10:00~ ① 佐野地区視察会(多田・長坂) 集合場所:葛の里駐車場
昼休憩(昼食持参)

【午後の部】
13:00~ ② シンポジウム 場所:葛の里・2階
組合司会 石川直樹 (産農食共生ネット副事務局長)
コーディネーター 深田陽平 (東京農工大学大学院連合農学研究科)
『佐野市内の里山活用事例紹介』
(産農食共生ネット事務局長 赤根(谷)雅人)
『生物から見た里山』
(NPO法人自然史データバンクアニマ-net 代表 渡邊秀昭 事務局長 田中恵)
『とちぎサイエンスらいおんの活動とGISによる里山研究』
(とちぎサイエンスらいおん事務局 藤平昌博)
『大学は里山の未来のために何ができるか?』
(宇都宮大学 産農食共生人見愛・梅津輝 他)

14:00~ 休憩
14:15~ ③ ワークショップ
専門家と交えていくつかのグループに分かれ、意見交換や意見集約を行う予定です。各グループでまとまった意見は代表者に発表していただき、参加全員で「栃木の里山の未来」について考えていきたいと思います。

16:10~ 発表会
17:00~ ④ 懇親会 (3000~4000円*参加人数による)

事務局:人見愛
(宇都宮大学農学部)
コーディネータ:深田陽平
(東京農工大学大学院
連合農学研究科)
シンポジスト:人見愛
(宇都宮大学農学部)
梅津輝
(宇都宮大学大学院
農学研究科)
ほか